

2016 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名 [海星学院高等学校] 担当教諭名 [山根 洋・市川 栄作] (2年 89名)

相手国・地域 [ウガンダ]

海外学校名 [Iganga Secondary School] 担当教諭名 [Merikol Patrick / 中林 彩(JICA)]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教 科	単 元 名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な学習の時間	国際理解	20

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	相手の人格・文化を尊重する心を挨拶にして、持続可能な社会への協同が始まる！
メッセージ (相手と一緒に 絵に込めた想い)	交流を通じ、それぞれの国や学校・文化について発表し合う中で、双方が相手を尊重し、理解しよう、楽しませようとする気持ちを持っていることを確認し合えた。特に互いの挨拶の仕方を学び、実践しあう中で響きあうものがあった。他者への気持ちを行動に移すことで、協同のスタートラインに立つ。それをこの絵から感じてもらえるように願い、作成した。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・相手国及び自国の文化、言語に対する生徒の興味、関心が高まった。 ・英語を公用語とする相手との交流によって、生徒の国際交流に関する興味関心が高まった。 ・壁画以外にもニューイヤーカーを作成するなどの作業を通じ、ユネスコの精神を培った。 ・強い達成感を味わい、生徒の自信につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> ・『今、私たちはとても凄い経験をしている。アフリカにいる人とこんな時間を過ごせるなんて、なかなかない。私たちはまずそれに感謝しなくてはならない。』(スカイプ交流後の生徒感想文より)プロジェクトの進捗によって、当事者意識が芽生え、海外との、また校内での一体感を味わい、感謝する生徒が現れた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アートマイルに取り組んで5年目であった。これまでのノウハウの蓄積(異文化・外国の仕事のペースへの理解の進化を含む)によって、ある程度先を見越した対応ができるようになり、終始、相手校の担当者と円滑にプロジェクトを進めることができ、自信を深めることができた。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	9月	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト概要説明 活動内容発表 役割分担、班編成(調べ学習班、スカイプ班、カード企画班、美術班) 自己紹介シートを持った姿をフォーラムに互いにアップ 	<ul style="list-style-type: none"> 7月上旬に教員のメール交流開始、下旬にスカイプテスト実施。8月にはフォーラムに教員の自己紹介を互いにアップ。 自己紹介カードの「知りたいこと」をもとに調べ学習のテーマを絞る。 	総合
共有 テーマ学習	10月	<ul style="list-style-type: none"> 調べ学習班がテーマ(culture・fashion・food・musician)毎に別れ、資料作製し、フォーラムにアップし合う 	<ul style="list-style-type: none"> 各班、活発に活動した。 資料を日本語で作成し、英訳。なお、4つのテーマを多面的・歴史的に紹介する工夫が見られた。 	総合
融合 メッセージ 壁画デザイン	11月	<ul style="list-style-type: none"> 2度のスカイプをメインに交流。日本文化を紹介する品を各自持参。歌の発表。構図とその分担を決定。 フォローアップにフォーラムを活用。下絵を提案し、了承を得る。 	<ul style="list-style-type: none"> スカイプ班が活発にミーティングを重ね、出し物(書道パフォーマンス)と歌の練習に励んだ。スカイプ交流に美術班の班長を交え、創造に円滑に移行できた。 	総合
創造 壁画制作	12月	<ul style="list-style-type: none"> 制作の様子をフォーラムにアップ。無事完成。調べ学習やスカイプで好評だった「漢字」でニューイヤーカードを送付する。 	<ul style="list-style-type: none"> 全員でカード作成に取り組んだ。また、常時、プロジェクトの進展を校内に掲示したので、全体の士気も高いまま推移した。 	総合
評価 振り返り 自己評価	3月	<ul style="list-style-type: none"> 2月下旬に相手国が壁画を完成させ、3月中旬に到着。学年で開封セレモニー(鑑賞会)を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 2年生全体の面前で開封され、喜びと達成感を共有することができた。温かいメッセージが多数同封されており、生徒は丹念に鑑賞した。 	総合

■学習目標(つけたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入(A:特に重視した B:重視した C:特に重視しなかった)

「成果」先生の手応え(5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった)

学習目標・つけたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	B	4	各テーマについて調べ、持続可能な社会の担い手として日本文化についての学ぶ必要性を確認した。
異文化の理解	A	5	交流の振り返りにおいて、相手との「相違点」「共通点」の観点から整理し、多くの共通点に喜んだ。
コミュニケーション力 (説明・共感・英語)	B	4	アメリカ修学旅行で培ったコミュニケーション能力をスカイプ及びフォーラム上で発揮することができた。
情報活用能力 (情報収集・発信)	A	5	歴史的・多面的な紹介に留意し、一つのテーマに一つの資料を作成。資料は必ず複数の生徒で内容を吟味し、相手の立場に立って考えることを意識できた。
人間関係をつくる (学級内・海外の相手)	B	4	全員が自分の役割ばかりでなく、周囲のサポートを自然に行い、人間関係が深まった。
協働する力 (役割分担・協力)	A	4	学年団結の一助となり、協働する姿が頻繁に見られた。
学習を追究する意欲	B	4	プロジェクトの魅力が強い動機付けとなり、学習や活動全般に対して意欲的に取り組んだ。
表現力 (伝えたいことを言葉・絵で表す)	B	4	交流の喜びから、例年に比べ、壁画に込めるメッセージの内容がより深いものとなった。
評価する力 (作品の鑑賞・学習の自己評価)	B	4	描き手の視点から、相手側の努力や気持ちを感じることができた。